

鳥取県病原微生物検出情報

(令和 7 年 5 月検出分 検体採取 令和 7 年 4 月及び 5 月)

令和 7 年 6 月 13 日

鳥取県衛生環境研究所

1 急性呼吸器感染症

臨床診断名が急性呼吸器感染症の検体 77 件について検査を実施したところ、以下のとおりの結果であった。

検査対象（ウイルス）

ライノ、ヒトメタニューモ、インフルエンザ A 型及び B 型、パラインフルエンザ 1-4、RS-A 型及び B 型、ボカ、SARS-CoV-2、エンテロ、アデノ、コロナ NL63 (※)

検査対象（細菌）

百日咳菌、*Bordetella holmesii*、*B. parapertussis* (※)、マイコプラズマ (※)

※印は 5 月 21 日搬入検体分より実施。

検出結果

77 件中 66 検体 (85%) から上記対象病原体が検出された。内訳は、ライノ : 33 件、ヒトメタニューモ : 6 件、インフルエンザ B 型 : 3 件、パラインフルエンザ 3 : 6 件、パラインフルエンザ 4 : 3 件、RS-A 型 : 1 件、RS-B 型 : 6 件、ボカ : 11 件、SARS-CoV-2 : 6 件、アデノ : 4 件、コロナ NL63 : 1 件であった。4 月検出分と合わせた年齢別検出数は表 1 のとおり。(ただし、検出件数は重複検出を含む。)

表 1. 急性呼吸器感染症の病原体、年齢別検出件数 (令和 7 年 4 月～5 月検出分)

病原体	年齢別検出数 () は標本数を示す									
	0-4 (49)	5-9 (9)	10-19 (4)	20-39 (8)	40-59 (17)	60-69 (7)	70-79 (5)	80-89 (3)	90-99 (2)	合計 (104)
ライノ	27	4	2	3	4	2	1	1		44
ヒトメタニューモ	6				1	3	2			12
インフルエンザ B 型			2		1					3
パラインフルエンザ 3	5				1					6
パラインフルエンザ 4	4									4
RS-A					1					1
RS-B	8	1							1	10
ボカ	14						1			15
SARS-CoV-2	2	1		2	1			1		7
アデノ	4									4
コロナ NL63	1									1
百日咳		1								1
検出せず	5	3	1	4	9	2	2	1	1	28

アデノは 5 型が 1 件、C 種 2 件、型不明が 1 件であった。アデノ C 種は急性呼吸器感染症の原因となるウイルスであり、5 型も C 種の 1 つである。昨年同時期に流行した咽頭結膜熱の原因ウイルスであるアデノ B 種 (3 型など) は、検出されなかった。

インフルエンザ B 型は 3 件すべてビクトリア系統であった。

SARS-CoV-2 の系統は表 2 に示すとおり、LP. 8. 1 が 1 件、NB. 1. 8. 1 が 1 件、XEC 系統が 2 件、系統不明が 2 件であった。LP. 8. 1、NB. 1. 8. 1、XEC 系統は、いずれも WHO の指定する監視下の変異株であり、NB. 1. 8. 1 は、2025 年 2 月以降東南アジアで増加している系統で、今後の動向に留意が必要である。

表 2. SARS-CoV-2 ゲノム解析結果（令和 7 年 5 月検出分）

検体採取年月日	年齢	型別
R7. 4. 18	33	XEC. 6
R7. 4. 21	80	LP. 8. 1
R7. 4. 28	45	不明
R7. 5. 5	1	不明
R7. 5. 13	1	NB. 1. 8. 1
R7. 5. 19	45	XEC. 4

【参考】

行政検査で実施した 1 か月小児の百日咳菌の検査で、百日咳菌のマクロライド耐性遺伝子が検出された。

2 感染性胃腸炎

臨床診断名が感染性胃腸炎の 14 件について検査を行ったところ、8 件からノロウイルスが検出された。ノロウイルスの 8 件はすべて G2 で GII. P17-GII. 17 が 2 件、GII. P16-GII. 4 が 1 件あり、5 件の遺伝子型は不明であった。全国的にも GII. 17 は過去 5 年間で最多であり、4 月に県内で多発した食中毒も同型によるものであった。また、サポウイルスが 2 件、アストロウイルスが 1 件検出された。

3 A 群溶連菌感染症

臨床診断名が A 群溶連菌感染症の 5 件について検査を行ったところ、A 群溶連菌 3 件が分離され T1 型 1 件と T 型別不明 2 件であった。

※T 型別：細菌表面にある T タンパク抗原を血清凝集反応によって型別したもの。病原性タンパクをコードする emm 型遺伝子型と密接な関係がある。T 型別の方が試験が簡易なことから型別によく使用されている。T1 型は emm1 型であることが多く、emm1 型は、劇症型溶連菌で最も多い型である。

4 RS ウイルス感染症

臨床診断名が RS ウイルス感染症の 2 件について検査を行ったところ、RS ウイルス B 型が 1 件検出された。

5 流行性耳下腺炎

臨床診断名が流行性耳下腺炎の 1 件について検査を行ったところ、ムンプスウイルスは検出されなかった。

6 ロタウイルス感染性胃腸炎

臨床診断名がロタウイルス感染性胃腸炎の 1 件について検査を行ったところ、A 及び C 群ロタ、ノロ、サポ、アストロ、アデノのいずれのウイルスも検出されなかった。